東京エスオーシー

物流高度化システム「ermc.jp」を導入

携帯とパソコンで車両管理

現場で1台ごとに文字情報

東京エスオーシー芝浦工場は日工と住商セメントが開発した生コン物流高度化システム「ermc.jp」(弊紙、10月16日号で既報)を導入している。その特徴と成果について同社の金塚美喜男専務取締役に聞いた。

□□

――先ず今回の新システム導入の経緯について

金塚専務　エスオーシーグループは従来からGPSによるアシテータ車の車両管理システムの活用に取り組んでおり、すでに佐倉工場では二年前から日工が開発したGPS動態管理システム「アシ太郎」を採り入れている。しかし、今回、芝浦工場が導入した「ermc.jp」は、「アシ太郎」のGPS動態管理機能をベースに、さらに大幅な機能の向上をはかった従来にない画期的なものだ。

金塚専務取締役

――従来までに無かった機能とは?

従来のシステムはミキサ車の動態管理を生コンの工場内つまり生コンサイドのみで行っていたわけだが、新システムのデリバリ管理機能はパソコンと携帯電話を用いて生コン工場、ゼネコン、販売店といった工事の関係業者間が車両情報を共有できる点が画期的といえる。

現場では携帯電話の文字情報で、車両一台ごとの現場への到着時間や到着してからの荷卸・待機など納入進捗情報が逐一確認できる。ゼネコンや販売店といった現場側は勿論、生コン側にも相当なメリットが見込まれる。

現場側のメリットはいうまでもなく、携帯電話で個々の生コン車の動向がわかる点だ。これまではアシテータ車が途切れるのが怖くて、いつも工場に過剰な要求がなされ、生コン側も過剰な車両でこれに応えるというのが実態だった。しかし、新システムの導入でこの点が大幅に改善され、双方にあらゆる点で余裕が生まれ、戻りコンも削減できる。

一方で生コン工場にとっても相当なメリットがある。そもそも生コン工場の車両管理は無線の時代が長かったわけだが、GPSによる動態管理システムを用いることで全体を把握でき、さらに個々の車両の状況までを計画段階で行える。これによって現場の納入条件などの諸状況を瞬時に把握することが可能になる。

また、夏場など時間の遅れで品質変化が激しくなるような状況でも安定した出荷が可能になるため品質面でもユーザーに

プラントの管理者側の立場に立ってみると、受注・製造はもちろん各アシテータ車までの出荷状況の整理が一瞬でできる。つまり経営的に工場の運行状況をひと目で判断できる。こういう点もメリットの一つといえるかもしれない。

――IT技術の進展にともない、動態管理システムの精度も以前に比べて上がっている?

も効率化や透明性をもたらすわけだから、IT技術の進展という背景ともあいまって必ずや理解されるシステムであると思う。

――IT技術の進展にともない、動態管理システムの精度も以前に比べて上がっている?

把握できる特徴は、特に車両の台数が多い場合、効果を発揮する。しかも、新システムの「ermc.jp」は配車シミュレーション機能があり、ユーザーのピッチに合わせた配車のシミュレーションができる。

安心感が与えられる。

一方、納入結果分析機能もあり、輸送効率が細部にわたって分析できるため、計画と実績の比較や問題点、課題の把握と対策の立案が簡易にできる。

――プラントの立場に立つと、車両の運行状況が特に顧客側に開示されてしまうことに抵抗はないのか?

結果的に、ユーザー側・現場側に多大なメリットを供与し、プラント側に

それは間違いなくいえるだろう。以前はインターネットと携帯電話がこれほどまでに普及することは考えられなかったが、この点をみてもわかる通り、IT技術は全般的に進歩しており、そうした点がシステム自体の精度の向上と以前に比べての低コストを可能にしていると思う。

――今後、グループ内で新システムは積極的に活用されていくのか?

今回は七月に芝浦工場に新システムを導入し、このほど試験的にゼネコンやデリバリーに情報を開示して八〇〇㎞ほど打設したが、現場サイド、工場サイドともに完璧な成果を得た。ただし、芝浦工場は四十六車のアシテータ車があるが、一工場だけでは、本当の意味で効果を発揮できるとは思っていない。やはり複数工場に導入して、グループ工場間で販売網を整備できればより高い効果が発揮できるため、他のグループ工場でも随時、導入を進めていきたい。

――GPSを用いた生コンの物流高度化システムは都市部の大型プラントでなければ活かせないか?

いや、決してそうではなく、むしろ、地方の一般的なスケールのプラントでも高い役割を発揮するであろう。なぜなら、地方は細かい現場が多く、それほど多くない数量の生コンを多数の現場に納入しなければならないというケースも多い。そんな場合には物流高度化システムは間違いなく効果を発揮する。現に佐倉工場は地方型プラントの部類に属するが、GPSシステムを導入したことで煩雑さが解消され輸送効率も上がった。

今後は、そういった地方のニーズに応えていくことも期待できる。